

それでも進化は続く。

特別展

大絶滅展

生命史のビッグファイブ
Mass Extinctions - BIG FIVE

2026.7.17(金) - 10.12(月・祝) 大阪市立自然史博物館 [ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター2階)]

開館時間: 9:30~17:00 (入場は16:30まで) 休館日: 月曜日 (祝休日の場合は開館し、翌平日休館。ただし、8/3・10は開館)
※混雑時は入場を制限する場合があります。

主催: 大阪市立自然史博物館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社 協賛: きんでん、清水建設 特別協力: 国立科学博物館 協力: ブリッジリンク
後援: 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会

<https://daizetsumetsu.jp>

ティラノサウルスCG ©NHK / ©アフロ / ©PIXTA / エーゴロカシス復元画 ©かわさきしゅんいち / レドンダサウルス ©福井県立恐竜博物館 ※画像はイメージです

《報道関係者お問い合わせ先》

特別展「大絶滅展」(大阪展) 広報事務局 (TMオフィス内) 担当: 馬場・永井・西坂

MOBILE: 090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

TEL: 050-1807-2919 FAX: 050-1722-9032 EMAIL: daizetsumetsu@tm-office.co.jp

開催趣旨

生命が誕生してから40億年、地球上では幾度も生命の危機が訪れました。それは主に地球外からやってきた小惑星の衝突や火山などの地球内部の活動によりもたらされましたが、ときに生命活動そのものが引き金になったこともあります。しかし生命は、その都度、したたかにそれらの危機を乗り越え、絶滅したグループに代わるグループが新たに繁栄することを繰り返すことで、多様に進化を遂げてきました。言わば、大量絶滅は生命の繁栄を促した現象だと捉えることもできるのです。本展では、その中でも規模の大きかった5回の「大量絶滅」事変（通称「ビッグファイブ」）を、化石や岩石に残された様々な証拠から紐解き、「生き物たち」の生存をかけた進化の歴史を辿ります。

各種の古生物や火山、古気候、古海洋などを専門とする国立科学博物館の研究者10名による監修で、様々な角度から5回の大量絶滅の謎に迫ります。

ビッグファイブとは...

生命の歴史の中で「進化」と「絶滅」は隣り合わせにある現象です。通常、100万年ごとに10%程度の種が絶滅すると考えられていますが、通常の絶滅とは異なって、短期間に75%以上もの分類群が絶滅したとされる現象（＝大量絶滅）が過去に何度も起こっています。そのうち最も大きな5回の絶滅現象がビッグファイブです。ビッグファイブを境としてそれ以前と以降の生命の世界が大きく変わったため、それが次の新しい世界へと繋がる大きな原動力になったという考え方があります。

- 1 オルドビス紀末 約4億4400万年前
- 2 デボン紀後期 約3億8000万年前～約3億6000万年前
- 3 ペルム紀末 約2億5200万年前
- 4 三畳紀末 約2億100万年前
- 5 白亜紀末 約6600万年前

監修者メッセージ

生命の歴史を大きく方向づけてきた「ビッグファイブ」は、現在、世界中の研究者が解明に取り組んでいる生命史研究上の大きなテーマです。小惑星の衝突により恐竜が「絶滅」したことで一般にもよく知られる5回目の大量絶滅、中生代／新生代境界（K-Pg境界）の事変だけでなく、他の4回の事変についても、その概要が少しずつ理解されつつあります。本展では、科博の古生物研究者全員と火山の研究者が協力して、文字通り、私たちの知識と人脈をフル活用し、ビッグファイブの最新研究を紹介します。中でも本展では、ビッグファイブのいくつかと深く関わるモロッコにおいて、オルドビス紀末の絶滅前の世界を垣間見ることができる「フェゾウアタ化石群」や、デボン紀の巨大魚類ダンクルオステウスなどの発掘、三畳紀末の絶滅に関わる火山活動の調査なども実施しました。これらの世界初公開の調査結果をはじめ、本邦初公開となる標本・情報が満載です。ぜひ、ご期待ください。

総合監修 やべ あつし 矢部 淳（国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ長）

見どころ

見どころ1

東京会場では約50万人が来場！

「ビッグファイブ」をテーマとする話題の特別展！

国立科学博物館で約50万人が来場した話題の特別展が大阪について巡回。

生命史の中で起きた5回の大量絶滅「ビッグファイブ」を最新の研究成果を交えて紹介します。

見どころ2

迫力の展示演出！

会場では大きな地球儀「大絶滅スフィア」が皆様をお出迎えします。「大絶滅スフィア」は球形の映像展示で、地球史における「ビッグファイブ」について紹介します。また、史上最大の絶滅の要因と考えられている火山活動を体感できる模型も展示いたします。



画像提供©アフロ ※画像はイメージです。



※画像はイメージです。

見どころ3

デンバー自然科学博物館から日本初公開の標本が来日！
その他、国内から世界初公開となる貴重な標本も！

全米有数の自然史博物館の一つであるデンバー自然科学博物館の貴重な標本の数々を展示します。日本からは全長約6mのステラーダイカイギュウの全身化石を世界初公開するなど「ビッグファイブ」や生命史を紐解く貴重な標本を多数ご覧いただけます。



デンバー自然科学博物館とはー

アメリカのコロラド州にある、全米有数の自然史博物館の一つ。

特に脊椎動物と植物の化石コレクションは、その規模、範囲、科学的価値において世界有数です。

©Denver Museum of Nature & Science

展示構成

生命史の中で起きた5回の大量絶滅に迫る！ 「ビッグファイブ」から生命進化の歴史を追体験

EPISODE

1

O-S境界

海の環境の多様化

約4億4400万年前

海の生物に大きく影響した最初の大量絶滅事変です。
オルドビス紀の世界有数の化石産地があるモロッコでの最新研究から、
絶滅事変の詳細に迫ります。

アノマロカリス復元画
©かわさきしゅんいち



アノマロカリス (レプリカ)
カンブリア紀/ラディオドンタ類/
国立科学博物館



エーギロカシス復元画
©かわさきしゅんいち



エーギロカシス
オルドビス紀/ラディオドンタ類/
国立科学博物館

オルドビス紀前期に生息していた巨大な節足動物に近い生物で、
体長は2mに達し、櫛状の器官
でプランクトンをこし取って食
べていたと考えられています。

EPISODE

2

F-F境界

陸上生態系の発展

約3億8000万年前～約3億6000万年前

火山活動に起因した寒冷化による複数回の絶滅事変です。
海ではF-F境界と直後のD-C境界でダנקルオステウスな
どの板皮類や多くの三葉虫が絶滅し、陸では巨大な森を
中心とした生態系が始まりました。



ダנקルオステウス (レプリカ)
デボン紀/板皮類/国立科学博物館

デボン紀後期に生息していた大型
の板皮類。強力な顎がある頑丈な
頭骨を持ち、当時の海洋で最強の
捕食者の一つと考えられています。



タリーモンスター
石炭紀/分類不明/豊橋市自然史博物館
復元画 ©かわさきしゅんいち



石炭紀の海に生息していた謎多き古生物で、
細長い体と特徴的な吻(ふん)を持っています。

最古の木の化石を 日本初公開！

※レプリカを展示（実物の化石は展示されません）



ワッティエザ
デボン紀/シダ類/ニューヨーク州立博物館
©Christopher Berry, William Stein, and
Frank Mannolini
高さ8mにもなった最古の高木植物です。

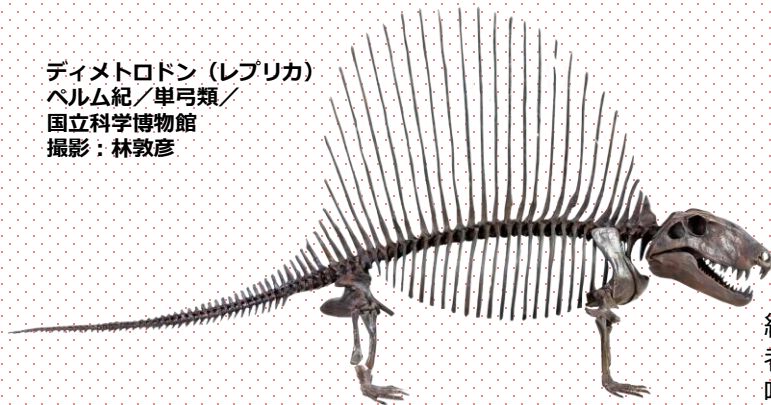
EPISODE

3

P-T境界 史上最大の絶滅 約2億5200万年前

シベリアで起こった大規模火山活動に起因した、古生代の終わりを告げる史上最大規模の絶滅です。海陸で多くの生物が絶滅しましたが、恐竜や魚竜、私たち哺乳類に繋がる仲間は生き残りました。

ディメトロドン（レプリカ）
ペルム紀／単弓類／
国立科学博物館
撮影：林敦彦



ウツサウルス（レプリカ）
三畳紀／魚鱗類／国立科学博物館

宮城県に分布する三畳紀前期の地層から発見された、世界最古級の魚鱗類です。陸上にいた祖先から水中での生活へと進出する初期の段階を示す重要な種です。

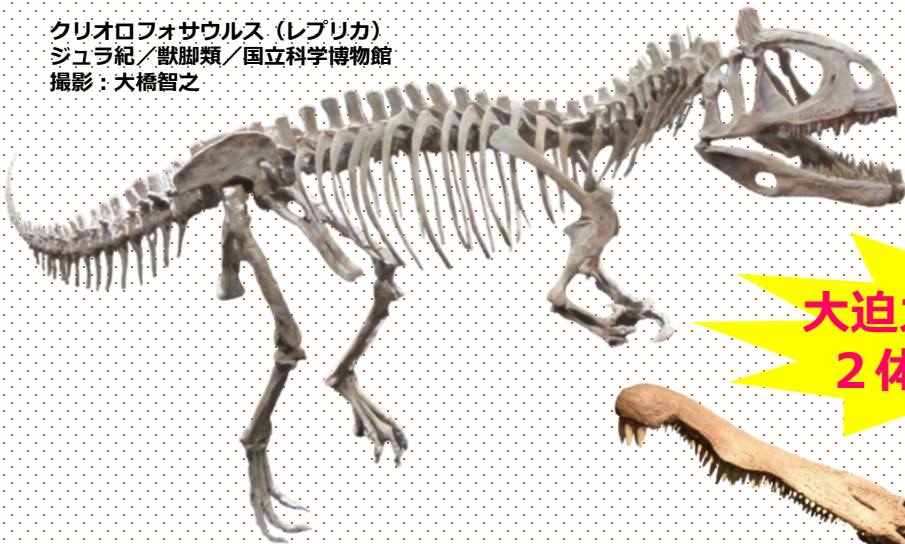
約2億8000万年前に生息していた大型の捕食者で、背中の帆が特徴的です。恐竜ではなく、哺乳類に近い仲間です。

EPISODE

4

T-J境界 恐竜の時代への大変革 約2億100万年前

クリオロフォサウルス（レプリカ）
ジュラ紀／獣脚類／国立科学博物館
撮影：大橋智之



大西洋をつくった超大陸パンゲアの分裂。この時に起こった火山活動が原因とされる絶滅事変は、“爬虫類”の世界を大きく変え、恐竜が主役に躍り出るきっかけになりました。歴史的に有名な北米の化石産地の研究も紹介します。

**大迫力の全身骨格を
2体並べて展示！**

約2億500万年前の三畳紀後期に北アメリカ大陸に生息していた大型の肉食性爬虫類です。恐竜類ではなくフィトサウルス類と呼ばれる分類群に属し、体全体はワニ類に似ていました。



レドンダサウルス（レプリカ）
三畳紀／主竜形類／
福井県立恐竜博物館

EPISODE 5

K-Pg境界 中生代の終焉 約6600万年前

小惑星の衝突により恐竜などの中生代型生物が絶滅しました。原因となった隕石や、この時代の変化が詳しく研究されている北米西部の化石を紹介します。絶滅を乗り越えた後の哺乳類の変化に注目です。

ティラノサウルス (レプリカ)
白亜紀/獣脚類/国立科学博物館



白亜紀末期に北アメリカ大陸に生息していた大型の肉食恐竜で、全長は最大約13mに達しました。強力な顎と鋭い歯で、他の恐竜の骨を噛み砕くことができたと考えられています。



トリケラトプス (レプリカ)
白亜紀/角竜類/国立科学博物館

アメリカのデンバー自然科学博物館
から貴重な標本が多数来日！

日本初公開！



エクトコマス
古第三紀/哺乳類/
デンバー自然科学博物館



ワナガノスクスの一種
古第三紀/ワニ類/
デンバー自然科学博物館



マメ科の一種 (さや)
古第三紀/被子植物/
デンバー自然科学博物館



エオコノドン
古第三紀/哺乳類/
デンバー自然科学博物館



ロクソロフスの一種
古第三紀/哺乳類/
デンバー自然科学博物館

※レプリカを展示 (実物の化石は展示されません)

©Denver Museum of Nature & Science

EPISODE 6

新生代に起きた生物の多様化

大量絶滅のなかった新生代ですが、寒冷化や乾燥化など激しい気候変化が原因で生物の世界に大きな変化がありました。現在見られる生き物の多様な世界がどうやって形づくられてきたか、化石で辿ります。

全長約6m！

ステラーダイカイギュウ
全身の実物化石を世界初公開！！

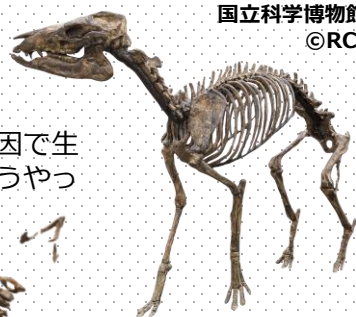


ステラーダイカイギュウ
更新世～1768年/ジュゴン科/国立科学博物館
復元画 ©かわさきしゅんいち

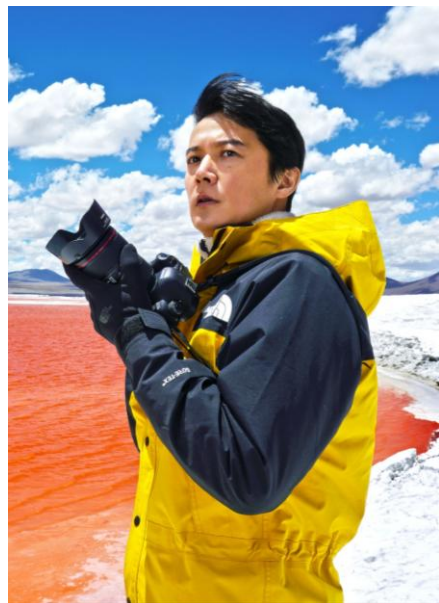


北太平洋に生息していた海藻食の大型哺乳類で、この化石はこの種の世界最古のものです。

シフルヒップス (レプリカ)
始新世/ウマ科/
国立科学博物館
©RCI



福山雅治さんが展覧会スペシャルナビゲーターに就任！



展覧会スペシャルナビゲーター 福山雅治（Fukuyama Masaharu）

1969年2月6日生まれ。長崎県出身。1990年、シンガーソングライターとしてデビュー。以降音楽活動、俳優、写真家、ラジオパーソナリティなど幅広い分野で活躍。地球上に残された独特の自然環境や、絶滅に瀕した貴重な生きものたちに最先端の特撮技術で迫る、NHKスペシャル『ホットスポット 最後の楽園』シリーズの番組ナビゲーターを務める。

▼**展示**：展示映像の一部にナレーターとしてご出演いただきます。さらに、福山さんが世界各地で撮影してきた絶滅の危機に瀕している動物たちの写真を展示します。

▼**音声ガイド**：本展の音声ナビゲーターも務めます。大量絶滅をめぐる生命進化の軌跡についてご案内します。

会場レンタル版：お一人様 1台650円（税込）
アプリ配信版「聴く美術」（iOS/Android）：
販売価格 800円（税込）

<お得な数量限定チケットも！>

▼ティラノサウルスぬいぐるみ付きチケット4,200円(税込)

大人前売券1枚と「ティラノサウルスぬいぐるみ」がセットになったチケットです。会場では当日券とぬいぐるみを購入するより550円お得です。

販売期間：5月12日（火）10:00～7月16日（木）23:59

※ただし売り切れ次第終了

販売場所：ローソンチケット（Lコード：51639）



ティラノサウルスぬいぐるみ

▼ペア前売り券 3,400円（税込）

大人前売券2枚のお得なペアチケットです。2名様でのご来場の場合に加えて、1名様で2回のご来場の場合もご利用いただけます。大人当日券を2枚購入するより600円お得です。

販売期間：5月12日（火）10:00～7月16日（木）23:59

※ただし売り切れ次第終了

販売場所：ローソンチケット（Lコード：51639）、アソビュー

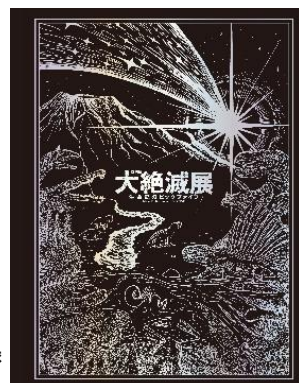
▼図録付きフリーパスチケット8,000円（税込）

図録付きのお得なフリーパスチケットです。会期内中はご本人のみ何度でもご来場いただけます。

販売期間：5月12日（火）10:00～7月16日（木）23:59

※ただし売り切れ次第終了

販売場所：ローソンチケット（Lコード：51639）



「大絶滅展—生命史のビッグファイブ」公式図録

開催概要

展覧会名：特別展「大絶滅展—生命史のビッグファイブ」

Special Exhibition: Mass Extinctions—BIG FIVE

会 期：2026年7月17日（金）～10月12日（月・祝）

開館時間：9時30分～17時（入場は16時30分まで）

休 館 日：月曜日（祝休日の場合は開館し、翌平日休館。ただし、8月3日・10日は開館）

会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2 階）
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

入 場 料：

	大人	高校・大学生	小・中学生
前売・団体券	1,800円	1,300円	500円
当日券	2,000円	1,500円	700円

※団体料金は20名以上 ※未就学児は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料（要証明）

※高校・大学生は要学生証

※上記特別展入場料で、大阪市立自然史博物館常設展も入場可能（当日限り）

※前売券は2026年5月12日（火）発売予定

チケット販売場所：アソビュー、ローソンチケット（Lコード：51639）、セブンチケット

（セブンコード：115-372）、チケットぴあ（Pコード：995-917）、

e+（イープラス）、イーティックス、アートパス、美術展ナビチケットアプリ など

主 催：大阪市立自然史博物館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社

協 賛：きんでん、清水建設

特別協力：国立科学博物館

協 力：ブリッジリンク

後 援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会

アクセス：■Osaka Metro 御堂筋線「長居」駅 3号出口・東へ約800m

■JR阪和線「長居」駅 東出口・東へ約1km

■大阪シティバス「長居東」停留所

■車でお越しの場合は、長居公園内の南駐車場、地下駐車場をご利用ください（有料）

お問い合わせ：大阪市総合コールセンター（なにわコール）06-4301-7285

受付時間／8：00～21：00（年中無休）

展覧会公式サイト：<https://daizetsumetsu.jp/>

監修

矢部 淳 （総合監修、国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ長）

佐野 貴司 （国立科学博物館 理学研究部長）

甲能 直樹 （国立科学博物館 生命史研究部長）

重田 康成 （国立科学博物館 生命史研究部 環境変動史研究グループ長）

對比地 孝亘 （国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ 研究主幹）

木村 由莉 （国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ 研究主幹）

齋藤 めぐみ （国立科学博物館 生命史研究部 環境変動史研究グループ 研究主幹）

久保田 好美 （国立科学博物館 生命史研究部 環境変動史研究グループ 研究主幹）

芳賀 拓真 （国立科学博物館 生命史研究部 環境変動史研究グループ 研究主幹）

三上 智之 （国立科学博物館 生命史研究部 日本学術振興会 特別研究員 PD）

《報道関係者お問い合わせ先》

特別展「大絶滅展」（大阪展）広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：daizetsumetsu@tm-office.co.jp